資料１－４

県試験研究機関の機能強化のためのプロセス

背　景

- 経済のグローバル化
- 流通のボーダレス化
- 高度情報通信技術の発達
- 環境意識の高まり
- 少子高齢化の進展
- 価値観の多様化
- 財政の逼迫

これまでの現状・課題

- 目的意識…
  「何をすべきか」
  「どうあるべきか」
- 研究の戦略性…
  「本当に必要か」
  「どう進めるべきか」
- 各部局毎の対応
  「融合と協働」

対応の視点

- 価値創造型研究への転換
- 組織マネジメント能力強化
- 芽出しの促進と狙い目の精査、選択と集中
- インクリメンタリズム研究からの脱皮とブレークスルー型研究への転換

山形県試験研究機関機能強化基本戦略(H15)、同Ⅱ(H16)

機能強化への取組み

着実な成果

①公募型研究の新規採択件数の推移

項目	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
採択課題件数	18	10	7	16	7	13	18	17

※平成29年2月末現在

②実施許諾特許等件数の推移

項　目	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
実施許諾特許等件数	15	14	14	16	26	26	35	40

※平成29年2月末現在

今後の展開

- 時代を先取りした研究開発の推進による新たな「知」の創出
- 科学技術の未来を担う人材の輩出
- 本県産業の「強み」を生み出す知的財産戦略の推進
- 活力ある豊かな県民生活の実現に向けた新たな「知」の移転・活用

第３次山形県科学技術政策大綱（H27）

アドバイザリー・ボード（H16 設置）

試験研究機関のあり方や今後の方向、研究の狙い目や進め方等試験研究機関の業務全般についてアドバイスを行う。併せて専門的識見から研究の価値等について評価するピアレビュー機能を果たす。（各専門分野の外部有識者２２名）

研究評価委員会（H15 設置）

各部局で実施されていたものを一元化し、部局横断的な外部評価を行うシステムを構築。研究課題の優劣等について総合的な評価を実施。
（学識経験者、マーケティング専門家など８名）

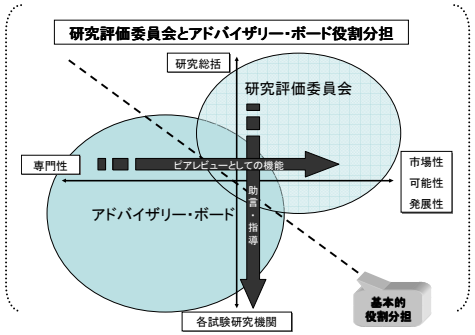
部局横断的予算調整（H15～）

従来の業種、分野、産業区分を越えた分野融合のプロジェクトなどに対応し、新しい価値や技術を生み出すための研究の芽だしと実効性の高い芽の選択や育成を行い、狙い目に対する投資の重点化を図る。

指導・助言　指導・助言　指導・助言　指導・助言

研究者・研究機関 → 研究計画 → 研究者提案（プレゼン） → 評価（重点化 効率化） → 課題化（予算化） → 研究実施

フィードバック　事後評価　指導・助言



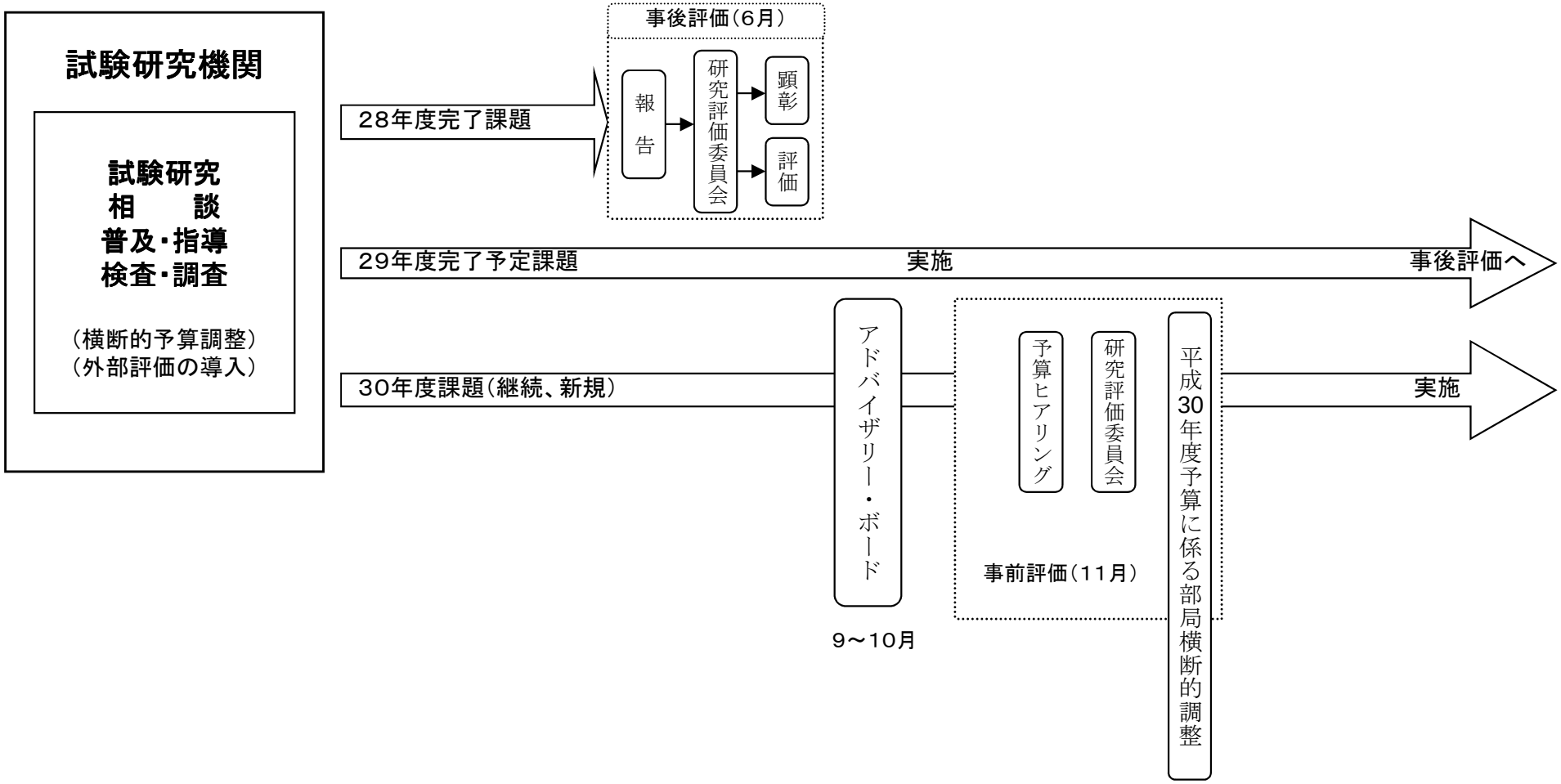
成果の顕彰（H16 改定）

県の若手研究者（40 歳未満）を科学技術奨励賞の対象に加え、優れた研究者などを顕彰するとともに、優秀研究課題を選考し、知事等の前で発表する機会を設けることなどにより、若手研究者の研究意欲の向上を図る。

知的財産の創出と適正管理（H16～）

知的財産の一元管理による特許等の適正管理を行うとともに、県知的財産管理審査委員会（知財等の外部有識者５名）の専門的意見を踏まえながら、研究成果等本県の知的財産の戦略的なの創出・活用を図る。

新しい価値や技術・産業の創出に貢献できる試験研究機関・研究者

平成29年度試験研究機関機能強化推進フロー

平成29年5月　工業戦略技術振興課科学技術振興担当